

2008 年度山谷夜回りの会活動報告

2009/3/31
文責 村井

1 はじめに

山谷夜回りの会をご支援いただきまことにありがとうございます。本年度の当会の活動報告書を皆様のお手元に送らせていただきます。

当会は 2002 年度まで、フランススコ会中谷神父主催の『山里の家』の炊き出しグループとして活動してまいりましたが、ご高齢になられた中谷師の体力的な問題などの事情で、『山里の家』としての炊き出し活動が中止となったため、2003 年度より『山谷夜回りの会』として新たに活動を開始いたしました。

『山谷夜回りの会』として活動をはじめてから、6 年目となりました。昨年度はネットカフェ難民やマック難民と呼ばれる、非正規雇用の若者たちがメディアでクローズアップされておりましたが、今年度になりまして全世界的な不況が起り、年越し派遣村をはじめとした派遣切りの報道を目にする機会が増えました。派遣切りの報道が流れるようになってから、当会にも衣類のご寄付をくださる方が増え、防寒具の不足する冬場を乗り切るのに大変助かりました。

メディアの方から取材協力を依頼されることも増え、特に派遣切りにあった方を紹介してくださいというメールを何件もいただきました。ただ、マスコミの方には残念ながら、山谷には派遣切りにあった方は、目立つほどはいらっしゃいませんでしたので、この手の依頼はすべてお断りさせていただきました。

私見ながら、現在盛んに報道されている派遣切り等の影響が山谷にも表れるのはおそらくもう少し先になるのではないかと思います。派遣切りにあった方たちの大部分は、まだ山谷のような日雇い労働ではなく、通常の求人を探して求職活動をされているはずですので、その過程であぶれてしまった方たちが、徐々に山谷に移っていらっしゃるような形になるのではないかと考えております。そうなる前に景気が回復し、少しでも求人が増えてくれればいいのですが。

景気の回復を陰で支えてきた、派遣や契約社員などの非常勤雇用の方々は、景気が悪くなった途端に最初に切り捨てられ、住む場所すら奪われた方も少なくないと聞きます。現在山谷で暮らしておられる方の多くも、日本の高度経済成長を日雇いという形で陰から支えてきたのにも関わらず、経済の停滞や、怪我・病気、高齢化などで切り捨てられてしまった方たちです。

同じ構造の問題が、きちんと省みられることなくまた繰り返されていることが大変残念です。近い将来日本中が山谷のようになっていくのではという危惧は今まで以上に強くなっております。

ホームレスの方たちを支援する上での最終的な目標は、今家を失っている方たちが住所を取り戻し、私たちの支援を必要とせず、社会で暮らしていけるようになることです。しかしながら、日本社会の現実、私たちが目指すところとは反対の方向に向かって動き続けているようです。

当会の活動は、社会全体を動かせるようなものではございませんが、家を失った方たちの日々の必要に応じて、これからも私たちの小さな手でできる範囲の支援を継続していきたいと考えてございます。当会が活動を継続できたのは、お米・梅干・海苔・毛布・衣類・日用品・献金、そして祈りと励ましなど、様々な形でご支援くださいました皆様のおかげでございます。皆様のお力添えをいただきながら、引き続いて山谷の皆様への支援活動を続けていければ幸いです。来年度もご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

簡単ながら、今年一年間の活動の様子をご報告させていただきます。

2 山谷の町の様子

公園や河川敷でテント生活を営む方たちに 2 年間低家賃住宅を貸し出し、その間に就職活動を行って自立ができるようにサポートする地域生活移行支援事業が、昨年終了しました。その結果、広範囲のブルーテントが撤去され、都の報告では都内のホームレスが激減したということらしいのですが、夜回りをしてみると人数にはほとんど変化がありません。

地域生活移行支援事業に参加した方のブルーテントがあったところはもう二度とテントを立て

られないようにされてしまったため、テントの数は確かに減っています。しかし、その分だけ、着のみ着のまま移動する方が増えているのです。支援事業のおかげで自立できた方もいる一方で、前よりも生活環境の悪化した方もおり、複雑な気分です。

ただ全体としては、行政による締め付けは年々厳しくなる傾向があります。近いところでは、今年に入って山友会での炊き出しが中止に追い込まれてしまいました。星の家でも警察から炊き出しをやめるように言われたとの話も聞いております。幸いにして当会はまだ中止にするようにと言われてはございませんが、そのようなことにならないよう注意深く動向を見守る必要があります。このような追い出しの背景には、東京都安全安心町づくり条例というものが関係しているらしく、この条例は「街頭や歩行者天国において大衆に多大な迷惑となるパフォーマンス等、街の秩序を乱す行為を慎む。」ということのようですが、定義があいまいで拡大解釈が簡単にできるため、行政に都合の悪いものがまとめて取り締まられるのではないかと、という懸念があるようです。(http://www.news-pj.net/bengoshikai/2009/jlaf-tokyo_20090212.html より)

一方で、墨田・台東区地域に建設が決定した新東京タワーの影響で新条例が制定され、さらに川沿いからの追い出しが厳しくなるのではないかとという話もございます。

いずれにしろ、周囲を取り巻く状況は、残念ながら厳しくなる方向に動いております。

3 おむすび

夜回りが一番喜ばれるのは何といってもおむすびです。ご寄付でいただいた保存食やカンパンなどをお配りすることもあるのですが、「おむすびはないの？」と皆さんから必ず聞かれます。

今年度もおむすびは、カトリック町田・松戸両教会の皆さまが一つ一つ心をこめて作ってくださいました。おむすび作りを続けてまいりますのは、定期的には大量のお米をご寄付くださる方、御海苔・梅干をお届けくださる方、教会から山谷までおむすびを運んでくださる方、その他にもたくさんの方々のご支援のおかげでございます。本当にありがとうございます。皆さまのおかげで、今年度は11427個、お米に換算すると約820kg分のおむすびを山谷の皆様にお届けすることが出来ました。

今年度は炊き出しの回数が20回でしたが、一回あたりのおむすびの配布数は約570個と今までで一番の量となりました。昨年度までが平均で約500個ですので、かなりの増量になります。おかげさまで、おむすびが途中でなくなって予定の公園を回れないというようなことは、かなり少なくなりました。

来年度からは、山友会の川沿いでの炊き出しが一部中止に追い込まれてしまったため、今まで山友会におむすびを届けておられたカトリック三軒茶屋教会のおむすびも、一部を当会でお配りさせていただくこととなりました。

外部からの締め付けがいろいろと厳しくなっていますが、来年度も山谷の皆様のお手元に心のこもった手作りのおむすびをお届けできればと思います。

4 衣類・日用品

衣類では、昨年度に引き続き、カトリック田園調布教会のご支援を受けることができました。おかげさまで、ジャンパーとセーターなどの防寒具類や靴下など、需要の高い品物を大量にお配りすることができました。今年度は暖冬のおかげもあったのかと思うのですが、防寒具の不足は昨年ほど逼迫した様子にはなっていなかったように感じました。

毛布は、買い出しに車を出してくださる方のおかげで、昨年度に比べて大分数を増やすことができました。全ての方に十分にいきわたるところまではさすがにいきませんが、緊急に必要な方たちのところには、それなりにお配りできたのではないかと思います。

ただ、いろは商店街近辺だけでなく、川沿い方面でも本格的に衣類・下着類の配布を行うようになったため、配布数は例年より多いのに不足が起こるというようなことも、下着類などで見られました。この点は来年度も引き続き検討していく必要がございます。

5 会計報告と口座について

今年度も皆さまから大変たくさんのご寄付をたまわりました。中でもおむすびづくりでも大変お世話になっております松戸教会からは、今年もバザー売り上げをご寄付としていただきました。どうもありがとうございました。簡単ながら、2008年度の会計報告をさせていただきます。

具体的な使途といたしましては、毛布と防寒具、衣類・日用品の購入、ご支援をいただいた皆様への報告書の郵送費となっております。内訳といたしましては下の表のように、冬場の毛布・下着・日用品類の購入費が大きなウェイトを占める形となっております。

今年度の繰越金 25378 円は、2009 年度のおにぎり活動費や日用品購入費に充てさせていただきます。どうぞご了承下さい。

当会のご寄付の口座ですが、会計担当者の交代に伴いまして、下記のように変更させていただきました。お手数おかけしてまことに申し訳ございませんが、ご寄付はこちらの口座にお振込みいただけますでしょうか。2009 年度もご支援どうぞよろしくお願いいたします。

郵便振込 口座番号：00180-8-429173 口座名称：山谷夜回りの会

以下に 2008 年度の会計報告を掲載させていただきます。

2008 年度山谷夜回りの会会計報告書 (2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日)

(単位：円)

	科目	金額
1. 収入の部(A)	前年度繰越金	25378
	寄付金収入	753000
	合計	778378
2. 支出の部(B)	毛布代(880 枚)	362000
	下着類・日用品類代	371440
	通信費・印刷代	20000
	合計	753440
3. 次年度繰越金(A-B)		24938